

アクセシビリティガイドライン

日本特殊教育学会第61回大会準備委員会・日本特殊教育学会アクセシビリティ委員会

このガイドラインは、アクセシビリティに係る配慮事項等についてお示しするものです。シンポジウム企画者をはじめ、話題提供、指定討論、研究発表される参加者の皆様におかれましては、視覚障害会員、聴覚障害会員、その他の参加者に対する適切な情報保障等にご協力賜りますようお願い申し上げます。

1. 大会に参加される皆様へ

- 本大会は、会場での対面開催となります。
- 研究発表・シンポジウムの原稿（発表抄録）において図表・画像を挿入される場合は、それぞれの図表等について文字による等価情報（図表等の文字による説明）を必ず加えて作成してください。これは、学会企画、大会企画、自主シンポジウム、ポスター発表等の全てを対象とします。
- オンデマンド動画の提出に際しては、「字幕挿入」が必要となります。
※ 本大会では、字幕挿入サービスは実施致しません。各発表者の責任において作成をお願いします。
- 必要に応じて、「動画作成ガイドライン」の動画をご覧ください。

2. アクセシビリティ・サービス（ACC サービス）を希望される方へ

（1）サービスの申し込みについて

- ACC サービスを希望される参加者におかれましては、必ず大会ホームページの「アクセシビリティ・サービス利用申込」より申し込みを行ってください。
- ACCサービスをご利用いただくにあたっては、必ず、期限（2023年5月31日（水）18:00）までに、事前のお申込をお願いいたします。
※ 期限を過ぎたお申込みについては、一切受け付けませんので、ご注意ください。
- 以下に、ACC サービスのお申込み等についての締め切り期日を示します。期日厳守にてお願いいたします。

内容		締め切り期日	申し込み・提出先
ACC サービスの申し込み締切		2023年5月31日（水）18:00（時間厳守）	大会ホームページ上
ACC サービス申込者への問い合わせ		アクセシビリティコーディネーターよりご連絡します。	
参加希望プログラム提出締切	視覚障害会員	アクセシビリティコーディネーターよりご連絡します。	大会アクセシビリティアドレス accessibility@jase.or.jp
	聴覚障害会員		
大会時の ACC サービスのご案内 （情報保障が提供される企画の決定、視覚障害会員向けテキストデータの発送など）		2023年8月上旬（予定） 大会準備委員会での作業の進展状況に応じて、時期が前後しますことご了承ください。	

(2) サービスの内容について

- ACC サービス申込をされた方には、事前に参加を希望されるプログラムについておうかがいします。
- なお人的・予算的な状況により、希望されたすべての企画に対してサービス提供を行うことが難しい場合が生じます。同時間帯の企画に希望が重なったり、希望される企画が広範にわたる場合には、希望の多い企画や各障害（視覚障害・聴覚障害）に関連する内容を扱う企画を優先してサービス提供させていただくことをご了承ください。
- プログラムの構成（日程・時間帯）によって、サービス提供が難しい場合のあることをご了承ください。
- 各プログラムでの「情報保障の内容」を表に示しましたので、ご確認ください。

○：情報保障あり ×：情報保障なし ▲：希望に応じて保障

企画	実施形態	情報保障の内容			
		視覚障害		聴覚障害	
		等価テキスト (発表抄録)	等価テキスト(動 画・スライド等)	文字通訳	手話 通訳
研究発表	対面開催：ポスター発表	○	▲	手書き要約筆記：▲	▲
自主 シンポジウムⅠ	オンデマンド+対面での 質疑応答	○	▲	オンデマンド字幕：○ 文字通訳 ：▲	▲
自主 シンポジウムⅡ	オンデマンド+質問フォー ムでの質疑応答	○	▲	オンデマンド字幕：○ 文字通訳 ：×	×
特別講演	対面開催	○	○	文字通訳 ：○	○
国際 シンポジウム	オンデマンド	○	○	オンデマンド字幕：○	×
大会企画・学会企 画シンポジウム	対面開催	○	○	文字通訳 ：▲	▲
教育講演	対面開催	○	○	文字通訳 ：▲	▲

(3) 手話による発表を行う方へ

- 「手話による発表」を行う方も、シンポジウム動画の作成にあたっては、必ず字幕の挿入をお願い致します。

(4) 移動支援を必要とされる方へ

- ACC サービス申込において、移動支援を申し込まれた方は、大会当日に受付にてお申し出ください。

3. 事前の資料提出のお願い

- 視覚障害・聴覚障害会員が参加を希望されるプログラムにつきましては事前に資料の提出をお願いしております。
- 動画上のスライドや字幕に示した文字は、“文字のみを取り出して、テキスト化すること”ができませんので、必ず事前提出をお願いします。
- ご提出いただく資料は以下の通りです。
 - ・(音声付きパワーポイントによる動画を作成した場合) 作成したパワーポイントファイル(ppt ファイル)そのものを提出してください。「配布資料」形式や「PDF」による提出はお控えください。
 - ・パワーポイント上で図表や写真等の視覚情報をご使用される場合は、パワーポイントのスライド上にその内容に関する「等価情報」を書き込んでください。

・もし、内容に個人情報や肖像権の問題から提供が困難な情報が含まれているようでしたら、該当箇所(写真等)を除いたものでもかまいません。

●資料の提出は、以下の期日までをお願いいたします。

障がい別	提出締め切り日	提出先
視覚障害会員が参加希望する企画	アクセシビリティコーディネーターよりご連絡します。 (2023年7月上旬～中旬を予定)	大会アクセシビリティアドレス accessibility@jase.or.jp
聴覚障害会員が参加希望する企画	アクセシビリティコーディネーターよりご連絡します。 (2023年7月下旬～8月上旬を予定)	

4. シンポジウムにて登壇される皆様へ

●「自主シンポジウムⅠ」、「学会企画シンポジウム」「大会企画シンポジウム」における、対面での質疑応答に際して、発表者が事前にアップロードした資料以外のものを参加者に配布される場合には、視覚障害等の読み書きに困難のある参加者から、そのデータ提供を依頼される場合があります。その場合には、本ガイドラインの3. 事前の資料提出のお願いに準じた対応をお願いいたします。

5. 発表原稿・オンデマンド動画における情報保障

(1) 図表等への等価情報の挿入 <視覚障害>

- 等価情報とは、図表・写真・描画など、発表時に使われる視覚情報の内容が視覚障害のある方にも伝わるよう文章で説明したものです。これには alt 属性(代替テキスト)やキャプション等が含まれます。
- 研究発表やシンポジウムの抄録に図表等を挿入した場合は、視覚情報から何が理解できるのかという要点を伝えられるよう、できる限り具体的な言葉で説明を加えてください。

(2) 等価情報の挿入方法 <視覚障害>

- Microsoft Word 2019 は、挿入した図表に「代替テキスト」を挿入できます。「代替テキスト」は本文上には表示されない形式で、文字情報を付加するものです。「代替テキスト」の編集は、以下のいずれの手順でも行えます。

・図表を右クリック → 代替テキストの編集 ・「ファイル」タブ → 「情報」の「ドキュメント検査」をクリック → 「アクセシビリティ・チェック(A)」 ・挿入した図表をクリック→「書式」タブ→“代替テキスト”
--

- 代替テキストには、以下の例に挙げたような情報を加えていただきたくお願いいたします。

- ・グラフの場合には主要な数値を書きながら、データの傾向を記述する
- ・写真や画像等の場合には、内容を端的に表す言葉を記述する
- ・表を画像として挿入する場合やフロー図の場合には順序に合わせて内容を記述する

<参考 URL> https://wotipati.github.io/blog/200507_alternativeText/200507_alternativeText.html

- 等価情報は図表等のタイトルに加えて、本文中に直接、文字情報を打ち込む形でもかまいません。ただし、抄録全体の文字数をオーバーしないようご注意ください。
- 動画上のスライドや字幕に示した文字は、“文字のみを取り出して、テキスト化すること”ができません。視覚障害の会員が参加を希望されるシンポジウムや研究発表につきましては、別途、資料の事前提出をお願い致します。

(3) 色覚特性（色覚障害）・ロービジョン（弱視）の参加者への配慮について <視覚障害>

●色覚特性（色覚障害）並びにロービジョン（弱視）の参加者が視覚情報を支障なく受け取れるように、動画用のパワーポイントスライド等を作成する際には色彩や配色、文字の大きさ等に十分配慮していただきますよう、ご協力をお願いいたします。以下に、具体的な配慮事項や参考資料を示します。作成の際にご参考になさってください。

【配慮事項】

- ①使用する文字は太字にする。
- ②赤色は見えにくいので、注意を喚起する色としては使用しない。
- ③緑色または黒地の背景に赤色（またはその逆）の文字や図の使用を避ける。
- ④黒を背景とした白や黄色の文字は見やすい。
- ⑤白を背景とし、黒のヘッジ（囲い）をつけた白い文字は見やすい。
- ⑥判別が難しい色同士の配色を避ける。
例：「赤・緑」、「深緑・こげ茶」、「ピンク・灰色」、「灰色・水色」、「黄緑・黄土色」、「青緑・灰色」、「薄い緑・肌色」
- ⑦グラフなどの図は、色のみではなく模様または文字などによる情報も加える。
- ⑧グラフなどの図は外周を黒でふちどり、その中に掲示する色同士の境目にも黒線を引く。
- ⑨スライドの文字は太字で5行以内に大きく掲示すると見やすい。
- ⑩スライドの背景デザインはなるべく連続して同一のものでそろえると目が疲れない。

(4) 動画への字幕挿入方法の紹介 <聴覚障害>

●動画に字幕を挿入するときは、「① 音声を文字化する」、「② ①で文字化した文章を動画に挿入する」という2つの作業が必要となります。

●①の作業については、以下の3通りのやり方があります。

a. 自分で音声を聞きながら、(キーボード等で)文字を打ち込んでいく方法

「確実に正確に文字化できる」一方で、作業時間が長く、手間がかかります。

b. 音声認識アプリを利用して文字を書き起こす方法

「比較的手軽に速く文字化できる」一方で、誤変換を修正する必要があります。

c. あらかじめ「読み原稿」を作成しておく方法

「最も確実な方法(おすすめ)です」一方で「質疑」や「討論」には対応できません。

b.の方法で使用できるアプリの例をいくつかご紹介します。他にもさまざまなソフトやアプリ等がありますので、ご自身の使いやすい方法を選択してください。

アプリ	URL
Google 音声文字変換:	https://play.google.com/store/apps/details?id=com.google.audio.hearing.visualization.accessibility.scribe&hl=ja
音声認識 JV2T - Jiritsu Voice to Text -	http://www.jiritsu.com/products/detail.php?id=403&group=B
Microsoft Stream	https://docs.microsoft.com/ja-jp/stream/portal-add-subtitles-captions

●②の作業については、PCに標準搭載されている以下のようなソフトが利用できます。

◆Windows:ビデオエディター ◆i OS :iMovie

ほかにも、市販のビデオ編集ソフトを利用することでより効率的に作業が進められます。

- ①と②の作業を一括して行うソフト(アプリ)として、以下のものも公開されています。

Vrew(ブリュー) <https://vrew.voyagerx.com/ja/>

Vrew(ブリュー)は人工知能技術を活用した無料の動画編集ソフトです。Vrew で動画を読み込むと AI が音声認識技術を活用して動画に録音されている音声 が自動でテキストに変換されます。このテキストを編集すると動画も自動で編集されます。

【注意】

ここで紹介したソフトやアプリの活用については、別途、契約や料金が発生する場合がありますので、個人の判断のもとに自己責任でおこなってください。

(5) 字幕挿入における留意事項 <聴覚障害>

- 以下の点に配慮することで、読みやすい字幕を挿入することができます。

①字幕の位置:スライド資料と字幕が重ならないようにすること。

②字幕の文字の大きさ:スライド資料と同程度の大きさを目安とすること。

③字幕の提示時間:読み速度およびスライド資料等への視線移動を考慮し、少なくとも1文字あたり0.25秒は提示すること(1秒間に4~6文字目安)

④字幕の編集:発話者が誰なのかがわかるように付記すること。例) 山田 / 山田: 山田) など

(参考資料:「字幕翻訳における文字数制限の妥当性についての検証 ~1秒4文字は妥当か?~」

http://honyakukenkyu.sakura.ne.jp/shotai_vol18/No_18-002-Toyokura-Yamada.pdf)

(6) 動画作成およびディスカッションでの発表・発言の留意点 <視覚・聴覚障害>

- できるだけ「明瞭な発話」を心がけてください。

●複数の発表者がいる場合には、「いずれの話者による発言か」が明確になるような配慮をお願いします。

●「どの部分について説明しているのか」「何について説明しているのか」という点が伝わるようなご配慮をお願いします。

●可能な限り「音声のみ」で内容が通じるような発表の工夫をお願いいたします。以下に話し方の例を示します。

【話す際の注意】

・発表や討論での発言の前に、自身の所属・名前を話すようにしてください。

・パワーポイントを使った説明では、「矢印」などによる指示を示すようにしてください。

・「これは・・・」「ここに挙げましたように・・・」など、いわゆる指示語(コソアド)の使用を控える。

【話し方の例】

・「この図は、～についての変化を表しています。縦軸は人数、横軸は2000~2021年の年度を示しています。」

・「グラフ上には赤線と、青線が記載されています。赤線は〇〇を、青線は〇〇の変化をそれぞれ示しています。」

・「年度が進むほど、人数が増加しています。2021年には〇〇人にまで達しています。」

・「この図の右側は教員の指導における工夫、左側には子どもの反応が書いてあります。上から順に・・・のように対応しています。」

・「この表は、指導者が留意すべき観点をまとめたものです。全部で5点挙げています。1点目は・・・」